



2016年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

2015年8月6日

アニコム ホールディングス株式会社

(証券コード：8715)

|        |   |
|--------|---|
| 会社名    | アニコム ホールディングス株式会社 (Anicom Holdings,Inc.)  |
| 事業内容   | 損害保険業 (ペット保険)、動物病院支援事業 等  |
| 所在地    | 東京都新宿区下落合1-5-22 アリミノビル2 F   |
| 設立年月日  | 2000年7月5日   |
| 代表者    | 代表取締役 小森 伸昭   |
| 資本金    | 43億7千万円 (2015年6月末日 現在)  |
| 連結従業員数 | 545名 (うち、獣医師 88名。いずれも2015年6月末日 現在。契約社員含む)   |
| グループ会社 | アニコム損害保険 (株)、アニコム パフェ (株)、アニコム フロンティア (株)、<br>アニコム先進医療研究所 (株) (旧: 日本どうぶつ先進医療研究所 (株))、<br>アニコム キャピタル (株) (2015年7月7日設立) |

## I. 2016年3月期 1Q 決算概要

---

## 1. 2016年3月期 1Q 決算ハイライト

## 業績

■ 経常収益 : 6,404 百万円 (前年同期は 5,163 百万円。 **24.0%増**)

(主な内訳) 保険引受収益 : 6,086 百万円 (前年同期比 21.4 % 増)

資産運用収益 : 188 百万円 (前年同期比 90.3 % 増)

■ 経常利益 : 491 百万円 (前年同期は 379 百万円。 **29.6%増**)

- ・ **保有契約数の順調な増加** (前年同期比 7.4%増) に加え、2014年6月に実施した**保険料改定**により保険引受収益が大きく増加。
- ・ **コンバインド・レシオは計画以上に改善が進み、利益構造は着実に良化。**
- ・ 正味損害率 (W/P損害率) が当初想定よりも低く推移したことから、**異常危険準備金戻入益が想定より277百万円低額**であった。ただし、あくまでも**通期では想定通り戻入益が計上される見込みであり、当該差額は解消される見込み。**  
(1Q異常危険準備金戻入益 : 想定は289百万円、実績は12百万円。差額277百万円は今後3Qで計上見込み)
- ・ 国内株式 / 国内REIT / 国内債券 等、リスクリターンのバランスを重視した運用により、**資産運用収益も増加。**

損害率  
(E/I)

■ 62.1 % (前年同期は 66.7 %。 **4.6pt 改善**)

- ・ 2014年6月の保険料改定をはじめとする**損害率改善諸施策の効果発現が継続**していることにより、**改善が着実に進捗。**

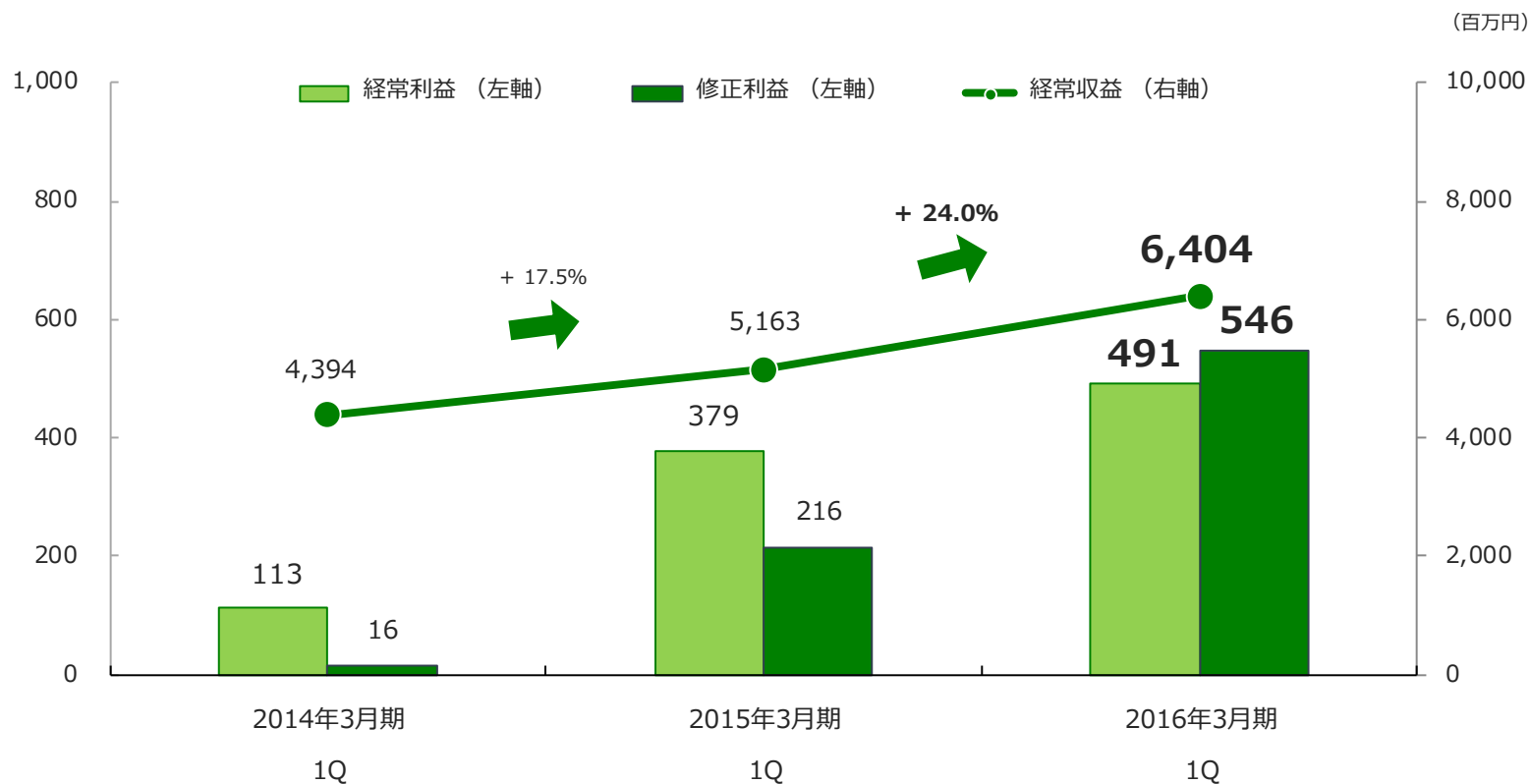
事業費率  
(既経過保険料ベース)

■ 28.4 % (前年同期は 28.7%。 **0.3pt 改善**)

- ・ 将来のペット保険契約獲得の加速や損害率改善に向けた取り組みを加速させるべく、予防を主眼として研究開発をはじめとする積極的な投資を行っているものの、**規模の経済効果や業務効率の継続的な改善**により、**事業費率は着実に良化。**

## 2. 経常収益・経常利益・修正利益の四半期別推移

(注) 修正利益 : ペット保険引受事業による実質的な損益を表す当社グループ独自の指標。  
 経常利益±異常危険準備金影響額±保険引受以外の営業費・一般管理費±  
 資産運用収支±その他収支にて算出。



- ・ 保険引受収益増加に加え、資産運用収益の拡大や子会社の貢献により、**経常収益は前期比 17.5%増→24.0%増。**
- ・ ペット保険引受事業の実質的な利益である**修正利益も大きく増加。**
- ・ **経常利益も過去最高を計上。** 異常危険準備金戻入益が当初想定から277百万円少なくなり、当初の1Q想定を同額押し下げたが (ただし当該金額は3Qで利益計上される見込み。詳細は「4.異常危険準備金戻入益の四半期別計上見込み」参照)、増益基調に変化なし。

### 3. 1Q利益に係る予実差異の内訳

- ・ 期初想定と実績比では、**保険引受事業・資産運用収支・子会社事業のいずれも想定以上に利益貢献。**
- ・ 正味損害率が想定を下回ったことにより、**異常危険準備金戻入益が想定より277百万円低くなったが、当該金額は3Qに計上見込み。**

**異常危険準備金の計上時期にズレはあるものの、通期利益は当初想定を上回って進んでいる。**

|                | 期初想定       |         | 実績         |         | 予実差異         |  |
|----------------|------------|---------|------------|---------|--------------|--|
| 既経過保険料         | 5,736      |         | 5,733      |         | △ 3          | } 保険引受事業は <b>想定以上に利益貢献</b>               |
| 保険引受関連費用       |            |         |            |         |              |  |
| 【内訳】 損害率 (E/I) | 62.1%      | (3,562) | 62.1%      | (3,560) | 2            |  |
| 事業費率           | 29.5%      | (1,692) | 28.4%      | (1,628) | 64           |  |
| <b>修正利益</b>    | <b>482</b> |         | <b>546</b> |         | <b>64</b>    |  |
| 資産運用収支         | 109        |         | 188        |         | 79           | ➔ 資産運用収支は <b>想定以上に利益貢献</b>               |
| 保険引受事業以外の収支    | △ 50       |         | △ 60       |         | △ 10         |  |
| 異常危険準備金        | 97         |         | △ 183      |         | △ 280        |  |
| 【内訳】 繰入額       | △ 192      |         | △ 195      |         | △ 3          |  |
| <b>戻入益</b>     | <b>289</b> |         | <b>12</b>  |         | <b>△ 277</b> | ➔ 戻入益が想定以下となったが、予実差異は <b>3Qに解消される見込み</b> |
| <b>経常利益</b>    | <b>638</b> |         | <b>491</b> |         | △ 147        |  |

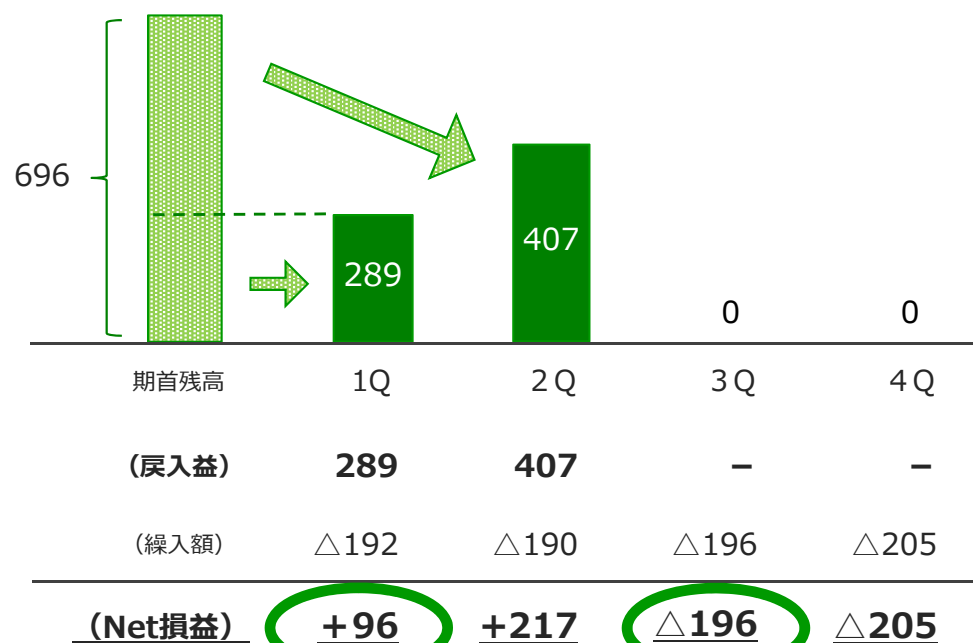
## 4. 異常危険準備金戻入益の四半期別計上見込み

① 繰入のルール : 収入保険料の3.2%が每期費用計上される。

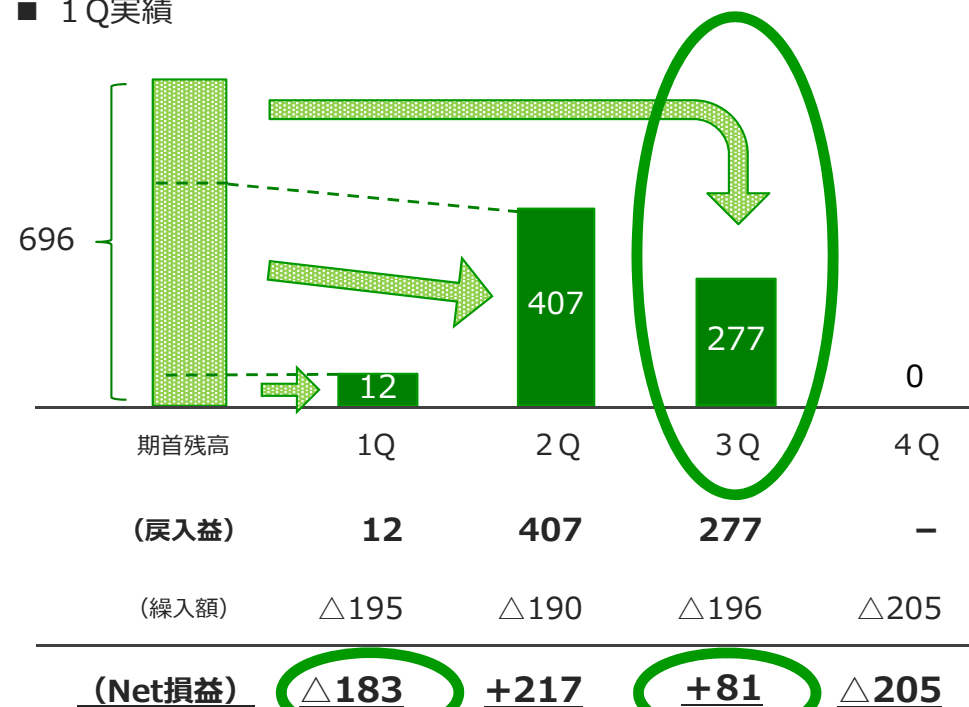
② 戻入のルール : 当期首残高を限度として、正味損害率 (W/P損害率) が50%を超える場合に、正味損害率が50%となる水準まで取崩す。

【異常危険準備金期首残高のQごとの戻入益及び損益への影響】 (単位: 百万円)

### ■ 期首想定



### ■ 1Q実績



■ 戻入益の1Q予実差異である**277百万円** (予想: 289百万円、実績: 12百万円) は3Qに期ズレする見込みであることから、3Qの経常利益を同額だけ押し上げる効果を持つ (3Q単独の経常利益は312百万円想定であったが、589百万円となる見込み)。

## 5. 2016年3月期 1Q 連結決算概況

(百万円)

## 主な勘定科目の内容と増減理由

|               | 15年3月期<br>1Q | 16年3月期<br>1Q | 対前期<br>増減率    |
|---------------|--------------|--------------|---------------|
| <b>経常収益</b>   | <b>5,163</b> | <b>6,404</b> | <b>24.0 %</b> |
| 保険引受収益        | 5,012        | 6,086        | 21.4 %        |
| 資産運用収益        | 98           | 188          | 90.3 %        |
| その他経常収益       | 52           | 129          | 147.6 %       |
| <b>経常費用</b>   | <b>4,784</b> | <b>5,913</b> | <b>23.6 %</b> |
| 保険引受費用        | 3,585        | 4,465        | 24.5 %        |
| (正味支払保険金)     | (2,844)      | (3,073)      | 8.1 %         |
| (損害調査費)       | (171)        | (212)        | 24.0 %        |
| (諸手数料及び集金費)   | (296)        | (368)        | 24.4 %        |
| (支払備金繰入額)     | (101)        | (273)        | 170.4 %       |
| (責任準備金繰入額)    | (171)        | (535)        | 212.5 %       |
| (うち未経過保険料)    | (335)        | (352)        | 5.3 %         |
| (うち異常危険準備金)   | (△163)       | (183)        | - %           |
| 資産運用費用        | 4            | -            | - %           |
| 営業費及び一般管理費    | 1,148        | 1,423        | 23.9 %        |
| その他経常費用       | 46           | 25           | △ 45.3 %      |
| <b>経常利益</b>   | <b>379</b>   | <b>491</b>   | <b>29.6 %</b> |
| <b>四半期純利益</b> | <b>251</b>   | <b>349</b>   | <b>38.9 %</b> |

|                                      |        |        |          |
|--------------------------------------|--------|--------|----------|
| 既経過保険料                               | 4,677  | 5,733  | 22.6 %   |
| 発生保険金 (損害調査費含む)                      | 3,117  | 3,560  | 14.2 %   |
| E/I 損害率 ①                            | 66.7 % | 62.1 % | △ 4.6 pt |
| 既経過保険料 <sup>△</sup> -事業費率 ②          | 28.7 % | 28.4 % | △ 0.3 pt |
| コバインド・レシオ(既経過保険料 <sup>△</sup> -) ①+② | 95.4 % | 90.5 % | △ 4.9 pt |

## ① 保険引受収益 (詳細は「6.経常収益のパラメータ」参照)

- ・保有契約が前年同期比7.4%増加。
- ・2014年6月に平均12%の保険料改定を行い、段階的に収益を底上げ。

## ② 資産運用収益

- ・主に国内株式・国内REITにより安定的な運用収益を確保。

## ③ 正味支払保険金

- ・保有契約数の増加に伴い保険金支払も増加するが、損害率改善施策等により、保険引受収益の増加率(21.4%)に比較し低い増加率で着地。

## ④ 損害調査費

- ・人件費をはじめとした保険金査定部門の費用。支払件数に応じて増加。

## ⑤ 諸手数料及び集金費

- ・主に代理店に対する手数料。保険引受収益の増加に伴って増加。

## ⑥ 支払備金繰入額

- ・将来の保険金支払に備えるための繰入額。
- ・支払備金(B/S) 期末残高-期首残高で算出。
- ・③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる。

## ⑦ 未経過保険料繰入額

- ・収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ。
- ・繰入額は期末残高-期首残高で算出される。なお、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる。
- ・①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料(≒発生ベースの保険料)となる。

## ⑧ 異常危険準備金

- ・制度化された積立であり、収入保険料の3.2%を毎期計上。
- ・一方、当期首残高を限度額として「正味損害率が50%となる水準」まで取崩すこととなり、繰入額はそのNet金額が計上される。
- ・通期では、おおよそ「増収分×3.2%」が繰入額として計上される。



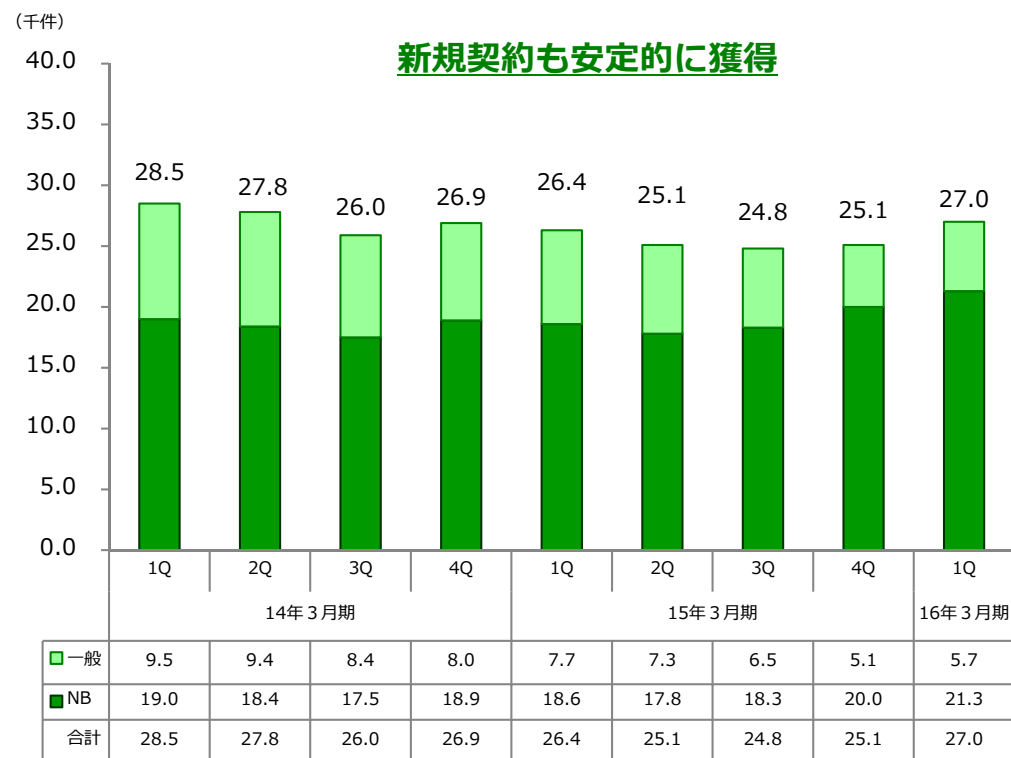
## 6. 経常収益のパラメータ (ペット保険保有契約件数/新規獲得件数の推移)

- ・ **新規契約獲得は順調に推移**。特にペットショップチャンネル経由の新規契約獲得数は、当初計画を7%程度上回っている。
- ・ **既存契約の継続率は88%前後で推移しており、順調な獲得が継続**。
- ・ 以上の結果、**保有契約数は順調に増加**。当期末には58万8千件で着地見込み。
- ・ 50%プランと70%プランの比率は、保有契約全体ではおおよそ2：1で50%プラン割合が多い。一方、新規契約では70%プランが5割超。

### ■ 保有契約件数の四半期推移



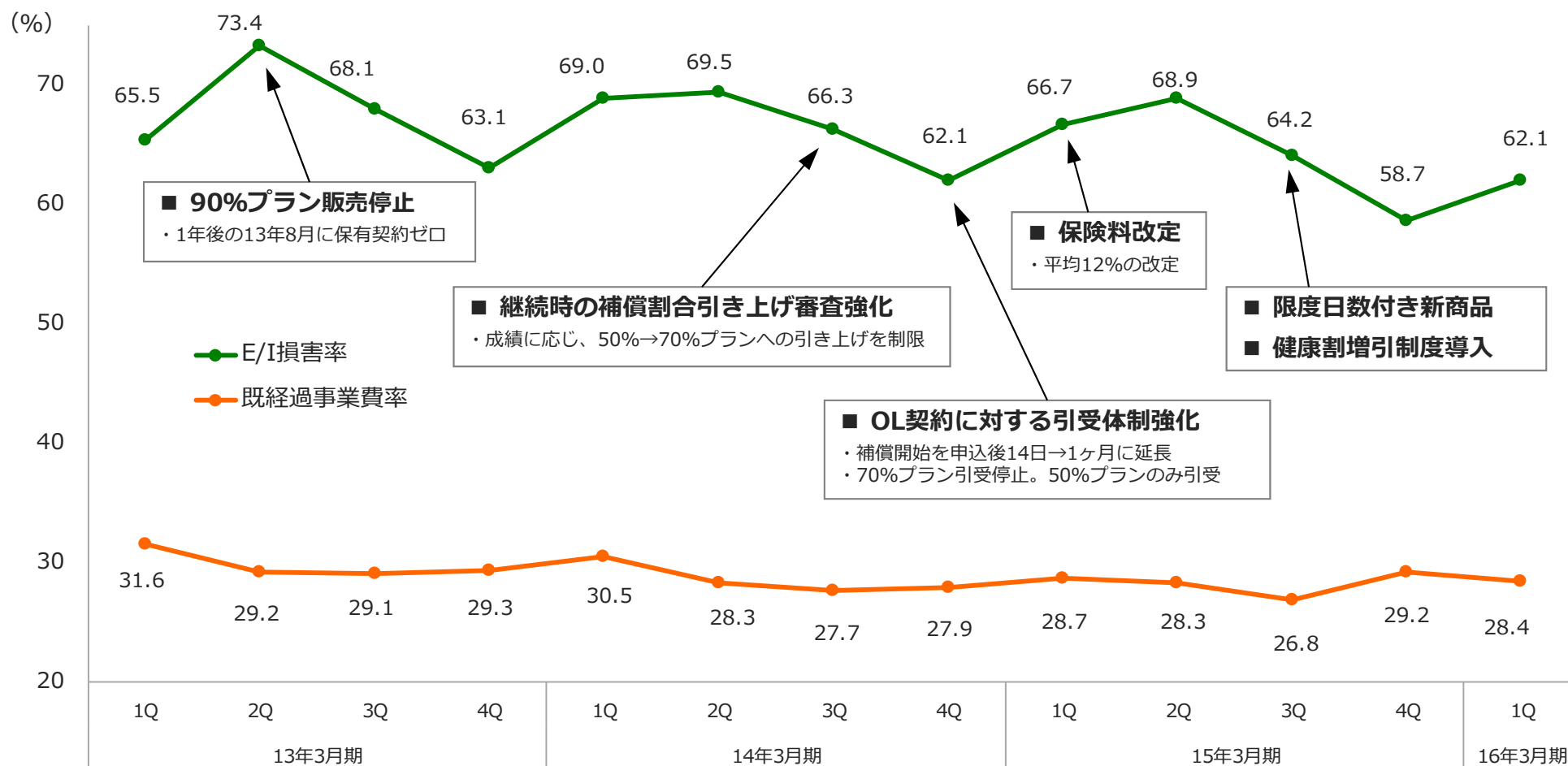
### ■ 新規契約獲得件数の四半期推移



※ NB：ペットショップチャンネル

## 7. 経常費用のパラメータ (損害率 (E/I)、既経過保険料ベース事業費率)

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。  
 注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。



・**E/I損害率は**、動物病院の繁忙期に応じて1Q・2Qに上昇した後、3Q・4Qに通院頻度が減少することで改善する季節性を有する。また、損害率改善施策効果の発現により、14年3月期2Q以降**8四半期連続で対前年同期を下回っており**、今後も緩やかな改善の継続を見込む。

・**事業費率は**、規模の経済効果に加え経費管理の徹底、システムを中心とした業務改善等により**30%を下回る水準で安定した推移**。

## 8. 連結貸借対照表 サマリー

(百万円)

主な勘定科目の内容と増減理由

|                 | 15年3月期        | 16年3月期<br>1Q  | 増減率          |
|-----------------|---------------|---------------|--------------|
| <b>資産合計</b>     | <b>22,337</b> | <b>23,323</b> | <b>4.4 %</b> |
| 現金及び預貯金         | 4,217         | 3,992         | △ 5.3 %      |
| 有価証券            | 15,108        | 15,353        | 1.6 %        |
| 有形固定資産          | 250           | 298           | 19.3 %       |
| 無形固定資産          | 566           | 565           | △ 0.2 %      |
| その他資産           | 1,945         | 2,711         | 39.4 %       |
| 繰延税金資産          | 263           | 419           | 59.1 %       |
| 貸倒引当金           | △ 13          | △ 18          | - %          |
| <b>負債合計</b>     | <b>13,066</b> | <b>13,801</b> | <b>5.6 %</b> |
| 保険契約準備金         | 10,528        | 11,338        | 7.7 %        |
| うち支払備金          | 1,435         | 1,709         | 19.1 %       |
| うち責任準備金         | 9,093         | 9,628         | 5.9 %        |
| その他負債           | 2,411         | 2,366         | △ 1.9 %      |
| 賞与引当金           | 103           | 71            | △ 31.4 %     |
| 価格変動準備金         | 22            | 25            | 14.0 %       |
| <b>純資産合計</b>    | <b>9,270</b>  | <b>9,521</b>  | <b>2.7 %</b> |
| 株主資本            | 9,272         | 9,664         | 4.2 %        |
| うち資本金           | 4,350         | 4,371         | 0.5 %        |
| うち資本剰余金         | 4,240         | 4,261         | 0.5 %        |
| うち利益剰余金         | 681           | 1,031         | 51.3 %       |
| うち自己株式          | △ 0           | △ 0           | - %          |
| 評価・換算差額等        | △ 1           | △ 142         | - %          |
| <b>負債・純資産合計</b> | <b>22,337</b> | <b>23,323</b> | <b>4.4 %</b> |

## ① 有価証券

- ・ 主に国内株式・国内REIT・CRF等にて運用。

## ② 支払備金

- ・ 将来の保険金支払に備えて計上される未払金。  
すでに請求を受けている①普通支払備金と、保険事故は発生しているものの未だ請求を受けていない②IBNR備金を計上。
- ・ 基本的に保有契約の増加に伴い保険金請求も増加するため増加傾向。

## ③ 責任準備金

- ・ 未経過保険料である①普通責任準備金(8,749百万円)と、異常災害に備えて引き当てる②異常危険準備金(879百万円)を計上。
- ・ 普通責任準備金は保有契約の増加に伴い増加する傾向であり、当該期における正味収入保険料のおおよそ35%~40%前後が残高として計上される傾向。

## 9. 連結キャッシュ・フロー サマリー

(百万円)

|                  | 15年3月期<br>1Q | 16年3月期<br>1Q |
|------------------|--------------|--------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 575          | <b>415</b>   |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 217        | <b>317</b>   |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 0          | <b>41</b>    |
| 現金及び現金同等物の増減額    | 358          | <b>775</b>   |
| 現金及び現金同等物の期首残高   | 1,301        | <b>1,567</b> |
| 現金及び現金同等物の期末残高   | 1,659        | <b>2,342</b> |

- ・コンバインド・レシオの改善と保険契約の伸長が相俟って、安定した営業キャッシュ・フローを計上。
- ・運用資産への投資を進める一方で売却による回収も実行し、投資キャッシュ・フローをコントロール。
- ・財務キャッシュ・フローは新株予約権の行使。

# APPENDIX

---

1. 主要経営パラメータ
2. グループの事業概要

# 1. 主要経営パラメータ (アニコム損保(株) 単体)

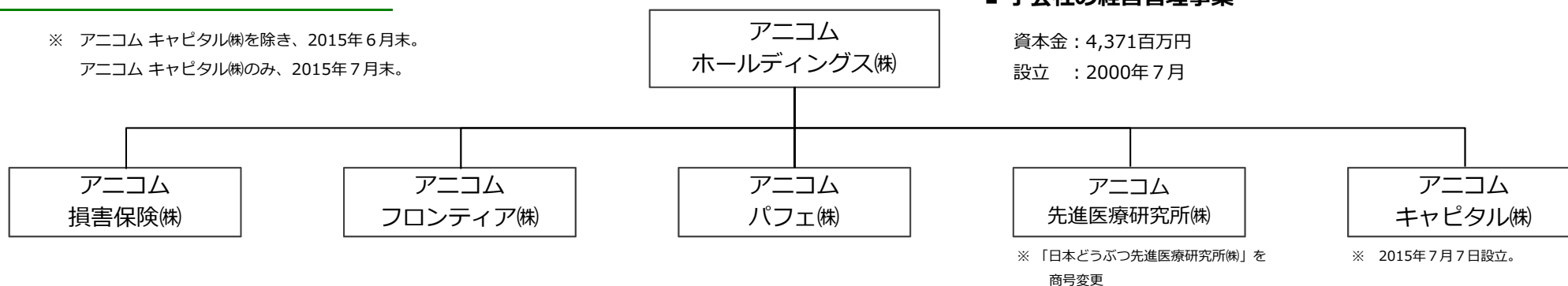
|           | ①            | ②          | 16年3月期<br>1Q | ②-①<br>前年同期比 |         | ②-①<br>対前期末 |       | 16年3月期末<br>(5月8日予想) |
|-----------|--------------|------------|--------------|--------------|---------|-------------|-------|---------------------|
|           | 15年3月期<br>1Q | 15年3月期末    |              | 16年3月期<br>1Q | 件数      | 率           | 件数    |                     |
| ① 保有契約数   | 516,618 件    | 544,815 件  | 554,837 件    | 38,219 件     | 7.4 %   | 10,022 件    | 1.8 % | 588,000 件           |
| ② 新規契約数   | 26,398 件     | 101,628 件  | 27,055 件     | 657 件        | 2.5 %   | -           | -     | 106,700 件           |
| (うち新生児)   | (18,682 件)   | (75,007 件) | (21,333 件)   | (2,651 件)    | 14.2 %  | -           | -     | (80,000 件)          |
| (うち一般)    | (7,716 件)    | (26,621 件) | (5,722 件)    | (△1,994 件)   | △25.8 % | -           | -     | (26,700 件)          |
| ③ 継続率     | 88.8 %       | 88.7 %     | 88.5 %       | △0.3 pt      | -       | -           | -     | 89.0 %              |
| ④ 保険金支払件数 | 593 千件       | 2,519 千件   | 618 千件       | 24 千件        | 4.2 %   | -           | -     | 2,790 千件            |
| ⑤ 対応動物病院数 | 5,630 病院     | 5,773 病院   | 5,820 病院     | 174 病院       | 3.1 %   | 47 病院       | 0.8 % | 5,923 病院            |

|                             | 15年3月期<br>1Q | 16年3月期<br>1Q | 対前年同期増減   | 16年3月期<br>(5月8日予想) |
|-----------------------------|--------------|--------------|-----------|--------------------|
| ① E/I 損害率                   | 66.7 %       | 62.1 %       | 4.6 Pt 改善 | 61.0 %             |
| ② 既経過保険料ベース事業費率             | 28.7 %       | 28.4 %       | 0.3 Pt 改善 | 30.9 %             |
| ③ コンバインド・レシオ<br>(既経過保険料ベース) | 95.4 %       | 90.5 %       | 4.9 Pt 改善 | 91.9 %             |
| ④ 単体ソルベンシー・マージン比率           | 297.6 %      | 286.7 %      | △ 12.0 pt | 290 %前後            |

## 2. グループの事業概要

### (1) グループ全体像

※ アニコム キャピタル(株)を除き、2015年6月末。  
アニコム キャピタル(株)のみ、2015年7月末。



### ■ 子会社の経営管理事業

資本金：4,371百万円  
設立：2000年7月

### ■ 損害保険業（ペット保険）

資本金：5,050百万円  
設立：2006年1月

### ■ 保険代理店業

資本金：10百万円  
設立：2005年2月

### ■ 動物病院支援事業

資本金：130百万円  
設立：2004年12月

### ■ 動物医療の臨床・研究

資本金：100百万円  
設立：2014年1月

### ■ ベンチャー・キャピタル事業

資本金：50百万円  
設立：2015年7月

### (2) グループ沿革

|          |   |          |                                       |
|----------|---|----------|---------------------------------------|
| 2000年4月  | 任意組合として anicom（どうぶつ健康促進クラブ）設立   | 2008年1月  | アニコム損保(株)がペット保険の販売を開始                 |
| 2000年7月  | anicomから「どうぶつ健保」事務受託会社として(株)ビーエスピー設立<br>(2005年1月にアニコム インターナショナル(株)に、2008年6月に<br>アニコム ホールディングス(株)に、それぞれ商号変更) | 2000年4月  | アニコム損保(株)がペット保険の補償を開始                 |
| 2004年12月 | アニコム パフェ(株)設立   | 2009年11月 | 「家庭どうぶつ白書」発刊（以降、毎年発刊）                 |
| 2005年2月  | アニコム フロンティア(株)設立  | 2010年3月  | アニコム ホールディングス(株)が東証マザーズ上場（証券コード：8715） |
| 2006年6月  | 保険会社設立準備のため、アニコムインシュランスプランニング(株)設立<br>(2007年12月にアニコム損害保険(株)に商号変更)   | 2014年1月  | 日本どうぶつ先進医療研究所(株)（現「アニコム先進医療研究所(株)」）設立 |
| 2007年12月 | アニコム損害保険(株)が損害保険業免許を取得<br>アニコム インターナショナル(株)が保険持株会社としての認可取得  | 2014年6月  | アニコム ホールディングス(株)が東証一部に市場変更            |
|          |   | 2015年7月  | アニコム キャピタル(株)設立                       |

## 2. グループの事業概要

### (3) ペット保険商品の概要

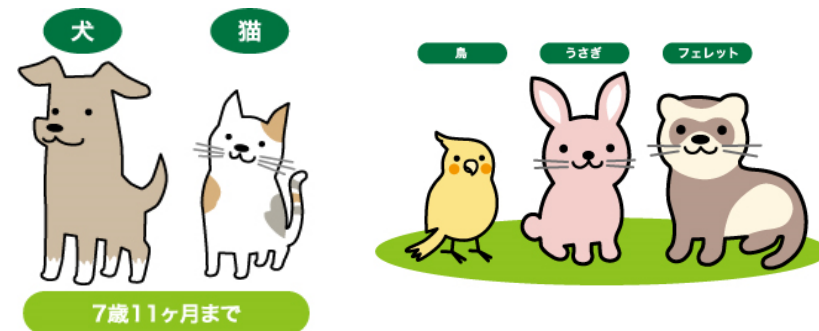
#### ① 補償内容

どうぶつのケガ・病気に対し、保険の対象となる診療費の70%もしくは50%を、支払限度額の範囲内で保険金としてお支払いします。  
(死亡補償ではありません)

|    | ふあみりい70%プラン<br>支払割合 70%<br>支払限度額と限度日数(回数)                     | ふあみりい50%プラン<br>支払割合 50%<br>支払限度額と限度日数(回数)                     |
|----|---|---|
| 通院 | 1日あたり最高 <b>14,000円</b> まで<br>※1年間にご利用できる日数は <b>各20日まで</b> です。 | 1日あたり最高 <b>10,000円</b> まで<br>※1年間にご利用できる日数は <b>各20日まで</b> です。 |
| 入院 | 1回あたり最高 <b>140,000円</b> まで<br>※1年間にご利用できる回数は <b>2回まで</b> です。  | 1回あたり最高 <b>100,000円</b> まで<br>※1年間にご利用できる回数は <b>2回まで</b> です。  |

#### ② 対象となるどうぶつと年齢

- 新規にお申込みいただけるどうぶつは7歳11ヶ月までの健康体である犬・猫。
- ペットショップでお迎えになる場合は、犬・猫のほか、鳥・うさぎ・フェレットについてもお申し込み可能。





## 2. グループの事業概要

### (4) 特長と競争優位の源泉

#### ① 窓口精算システム

人間の健康保険と同様の窓口精算システムを採用し、契約者の利便性が高い仕組みを構築しております。

契約者の方には人間の健康保険証と同様の「どうぶつ健康保険証」を発行しております。この「どうぶつ健康保険証」をアニコム損保(株)と提携する動物病院の窓口で提示すればお支払いは自己負担額（保険金支払対象額の30% or 50%。ただし限度金額あり）のみとなり、その場で保険金の精算が完了します。



#### ② 圧倒的な提携動物病院の数

ペット保険を取り扱っている同業他社でも同様の仕組みを採用している会社もありますが、その提携動物病院の数には圧倒的な差があります。

アニコム損保(株)では全国で5,820の動物病院施設と提携（2015年6月末時点）しており、保険金請求の約85%が窓口精算による請求であります。



全国 **5,820** 動物病院と提携  
(※ 2015年6月末時点)

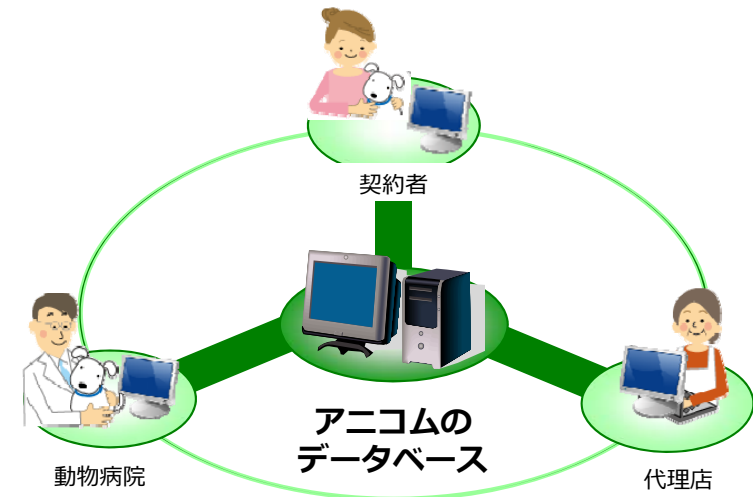
## 2. グループの事業概要

### (4) 特長と競争優位の源泉

#### ③ シームレスネットワーク

保険契約に関する情報を契約者・動物病院・代理店・アニコム損保間で即座に繋げるネットワークを構築しております。

保険金請求データのみならず契約データ等もネットワークで共有することにより各当事者の利便性の向上を図るとともに大幅なコストダウンを達成。事実上の参入障壁のひとつとなっております。



#### ④ 多種多様なバックグラウンドを持つ社内獣医師人材

2015年6月30日現在、88名の獣医師がアニコムグループに所属しております。それぞれの獣医師は、大学院で研究を続け博士号を取得している者から、臨床現場で1次診療や2次診療、救急診療を経験している者まで、そのバックグラウンドは多種多様であります。

これら獣医師は、獣医療に関する研究・分析のほかペット保険の引受審査や支払調査を担当する者、動物病院の獣医師や契約者と対話する者等、「獣医師だからこそ」の信頼性が必要となる様々な場面で活躍しております。

また、月次でグループの獣医師が集まり、勉強会等も開催しております。



本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。

### お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部

東京都新宿区下落合1-5-22 アリミノビル 2F

URL : <http://www.anicom.co.jp/>

